

## 元日本代表選手が特別授業

2月7日、仁比山小学校で、サッカー元日本代表の小倉隆史さんを招いての体育の特別授業が開催されました。これは、文部科学省と公益財団法人日本体育協会が取り組んでいる「子どもの体力向上啓発事業」の一環として実施されたものです。

小倉さんは講話の中で、夢を持つことやその実現に向けて工夫し努力することの大切さを自らの経験をもとに話され、参加した5、6年生の児童は熱心に聴き入っていました。



運動場で開催されたサッカーの実技指導では、子どもたちと一緒に体を動かしながらボール

の扱い方のコツを伝授。ミニゲームにも参戦し、素早いドリブルを披露してくれました。パスの出し方やフリフティングの指導もあり、子どもたちにとって貴重な体験となった1日でした。



## たくさんの思い出を胸に 小学校306人が卒業

3月19日、市内7つの小学校で卒業式が行われ、合わせて306人の6年生が、前日に開花した桜に見送られ学舎の門を後にしました。



42人が卒業した千代田中部小学校では、一人ひとり、校長先生から卒業証書を受け取りました。式では、卒業生が両親や先生への感謝と「よく考える事、思いやりの心を持つ事、進んで行動することを胸に新たな場所へ進みます」と決意の言葉を述べ、「さようなら」「仰げば尊し」などの歌声が響きました。



## 中学校299人が卒業

市内3中学校でも3月15日、卒業式が行われ、3校合わせて299人が新生活へ旅立ちました。

脊振中学校では、17人が卒業を迎えました。卒業証書が手渡された後、吉川正志校長先生が「たくましく豊かな人生を送るには愛情と試練が必要。脊振中学校の校訓を忘れず、高い志を胸に羽ばたいてほしい」と激励の言葉を贈りました。

式終了後、卒業生と在校生全員で「翼が今」を合唱。決意を新たに旅立ちました。

## 人助けや被災者支援で小学生に善行表彰

### 神埼小学校 SF青空プロジェクト実行委員会



3月1日、神埼小学校で昨年実施した福島県の小学校との交流事業「S（佐賀）F（福島）青空プロジェクト」の実行委員会が、佐賀県教育庁の東部教育事務所から表彰され、實松教育長から表彰状が授与されました。

「SF青空プロジェクト」は、東日本大震災で被災した福島県の小学生を招き、青空の下で思い切り遊んでほしいと企画されました。実行委員として手を挙げた6年生13人のメンバーで、ゲームやプレゼント交換など交流会の内容を検討したり、出迎えのアーチを作ったりと、昼休みなどの時間を使って準備を重ね開催しました。

訪れた福島県葛尾小学校の児童は温かい出迎えや楽しい遊びに笑顔を見せ、被災者に勇気と希望を与えた今回のプロジェクトを推進したことが評価されました。

実行委員会のメンバーは、「一生懸命考えて準備してきたので、葛尾小のみんなに喜んでもらえて嬉しい。」と話し、人の役に立てたことが自信につながった様子でした。

田代高規校長先生は、「今回の経験を通して、人を思いやる優しさが強くなったと感じる。子どもたちが頑張ってきたことが認められて大変嬉しい」と話されました。

### 千代田中部小 園田一馬さん 古川弘基さん

2月5日、千代田中部小学校4年生の園田一馬さんと古川弘基さんに、佐賀県教育委員会教育長から表彰状と記念品が授与されました。

2人は、昨年6月3日の日曜日、友人宅に遊びに行く途中、農道脇でうつ伏せに倒れて苦しそうにしているお年寄りを発見しました。近くに大人の姿はなく、人通りの少ない場所でもあったため、とっさの判断で、一人がその場に残り、もう一人が自転車で助けを求めに行くという行動をとりました。助けを求めに行った一人は、千代田文化会館（はんぎーホール）の職員に状況を伝え、車を出してもらって現場に戻りました。お年寄りのそばで「大丈夫ですか」と声を掛けていたもう一人は、通りかかった車を呼び止めて状況を説明し、救急車を呼んでもらい、お年寄りは救急車で無事に病院へ搬送されました。



2人は、「早く助けを呼ばないと！」「ここにいるだけじゃ何もできない」と思ったそうです。

永淵由利校長先生は、「想定外の出来事が起きたときに、とっさの判断をすることは大人でも難しいこと。瞬時に判断し、行動できる子どもが育ってきていることを嬉しく思います」と話されました。

## つなごう地域 つなげよう気持ち 第4回 地域人づくり・まちづくりサミット開催!

3月2日、「第4回 地域人づくり・まちづくりサミット」が三丁目の神幸館で行われました。サミットでは「足元を見つめ直す見聞ツアー」や「CSO活動事例発表会」などがあり、参加者同士の交流会も行われました。

見聞ツアーには約30人が参加し、脊振町の後鳥羽神社と広滝第一発電所を見学。また、神崎市まちづくり市民活動支援事業に取り組みされた「岩田公民館まちづくり実行委員会」代表の高平榮次郎さんと「四丁目自治会」公民館長の田原義隆さんから各地区のCSO活動が発表され、参加者らは活発な意見交換を行いました。

この事業は、中間支援組織である「CSOかんざき」が主体となって実施され、それぞれのCSO活動の充実に向けて協働のまちづくりに取り組まれています。



※CSO (Civil Society Organizations) 市民社会組織の略で、NPO法人、市民活動、ボランティア団体の呼称。

## 新しいスポーツにチャレンジ

2月24日、第7回神崎市レクリエーション大会および神崎市少年スポーツクラブ交流大会（神崎市体育協会主催）が神埼中央公園体育館で行われ、市内の子どもから大人まで約80人が参加しました。

今回は、フライングディスクを使って専用のゴールを狙う「ディスクゲッター」など、年齢や体力に関係なく、簡単なルールで楽しめる11種類のニュースポーツが会場内に勢ぞろいしました。

初めて体験するスポーツも多い中、参加者の皆さんは、楽しく体を動かし、大会は大いに盛り上がりました。



## 寒風の中を力走 県内一周駅伝大会



2月15日から17日まで、第53回郡市対抗県内一周駅伝大会（佐賀新聞社・佐賀陸上競技協会主催）が行われました。

大会は、3日間かけて県内を一周し、ゴールの佐賀新聞社までの全33区間（269.9 km）で実施。今大会のために厳しい練習に取り組んできた選手たちは、冷たい北風が吹く中、たすきをつなぐために力走。沿道からは大きな声援が送られていました。

神埼・吉野ヶ里チームの成績は、総合9位でした。



## ふるさと カメラ点描



### はないかだ 「花筏」

花びらが川面に浮かぶ様子を筏(いかだ)に見立てて花筏とも呼ぶそうです。写真は千代田町の次郎の森公園。園内を流れる小川が花びらで埋め尽くされていました。「徒然草」に「花は盛りに、月は隈なきをのみ見るものかは…」という一節があります。満開や満月の頃だけでなく、散り行く桜や欠けて行く月にも趣

があるものだという考えが説かれていますが、日本人の言葉の豊かさや「もののあわれ」を感じる心、大切にしたいものです。

## ルールを守って渡ります

2月25日、幼児交通安全フェスティバルが千代田町はんぎーホールで行われました。

平成25年度に小学校に入学する幼児を対象に、交通安全協会・交通指導員などの協力で毎年行われているもので、市内の幼稚園・保育園から園児約300人が参加しました。

園児らは、警察音楽隊の演奏を楽しんだ後、映画や交通指導員の話を通じて「道路では遊ばない」「道路に飛び出さない」「横断歩道を渡る」の3つのお約束を学びました。その後、神崎市のゆるキャラ「くねんワン・ニャン」と一緒に、信号機の確認や横断歩道の渡り方を実際に体験しました。

また、会場の外ではパトカーや白バイの試乗が行われ、園児たちを楽しませていました。

